

## 平成 27 年度第 1 回京都スポーツの絆が生きるまち推進会議摘録

日時：平成 27 年 7 月 10 日（金）午後 4 時～午後 5 時 30 分

会場：京都市役所本庁舎 1 階 F 会議室

出席：

< 委 員 > 石野委員，飯田委員，高屋委員，檀野委員，長谷川委員，藤井委員，  
松永委員，森井委員，三浦委員，山下委員，福林委員（局長）

< 京都市 >

（文化市民局市民スポーツ振興室）

松田市民スポーツ振興室長，西原京都マラソン担当部長，

北川スポーツ企画課長，横山スポーツ振興課長，安田施設担当課長 ほか

（オブザーバー）

中村長寿福祉課担当課長，東障害保健福祉推進室社会参加推進課長

（傍聴）

京都ハンナリーズ（プロバスケットボール） ほか

### 1 開会（事務局：松田室長）

### 2 委員長挨拶（山下委員長）

スポーツ振興計画を策定してから 5 年という節目を迎えた。我々が策定した計画が的を射たものであったのか，この先 5 年間のことも含め，計画の見直しを行っていきたい。特に，スポーツのインフラ・情報面，そしてスポーツリエゾンについて議論いただければと思う。

### 3 新任委員紹介（藤井委員）

### 4 議事

京都市スポーツの絆が生きるまち推進プラン「京都市市民スポーツ振興計画」の中間見直しについて

（1）計画の進捗状況に対する点検・評価（他局の取組状況について）

○資料説明：資料 2・資料 3・参考資料 1（事務局：北川課長）

- ・山下委員長 ただいまの説明に対して，何か質問はあるか。
- ・松永委員 資料 2 の身近なスポーツ環境の整備について，「街区公園にお

ける健康遊具の設置」とあるが、新規で設置された数ではなく、全体で今何割設置されているのかを数値で出していただいたほうが分かりやすい。可能な限りで良いので、全体が分かるように次回以降改善いただければと思う。

・事務局（北川課長） 了解。

・山下委員長 施設に関していつもご意見をいただく檀野委員はいかがか。

・檀野委員 水泳関係でいうと、アクアリーナについて、3年ほど前に改修していただいたおかげで、今年度はインターハイ（全国高等学校総合体育大会）を誘致することができた。大変ありがたい。やはり、電光掲示板がセイコーに変わったことが大きい。東京オリンピック・パラリンピックまでの間に、今年は全国高等学校総合体育大会、来年は全国国公立大学選手権水泳競技大会、4年後の平成31年には全国中学体育大会（インターミドル）の開催が決定した。水泳関係の施設については充実したと思う。

・山下委員長 他にスポーツインフラについての意見はあるか。

・高屋委員 体育振興会では、小学校や中学校のグラウンドを使うことが多いが、状態が非常に悪い。何十年も未改修のグラウンドが多く、教育委員会の担当になるかもしれないが、スポーツの裾野を広げるためにも、なんとかしていただきたい。

・事務局（松田室長） おっしゃるように、地域の方のスポーツの拠点が学校になっていることは承知している。数が多いため、すぐに整備をすることは難しいが、教育委員会と連携を取りながら、できることから行っていきたいと思う。また、今回の計画の見直しにおいても、学校や身近な施設は重要なポイントになると思うので、皆さんの意見を踏まえながら計画に盛り込んでいきたい。

・高屋委員 少しずつ、順番に整備をお願いしたい。

・松永委員 京都市の多くの施設では、バドミントンのラインが恒久的にひかれていないとのこと。バドミントンは小学生女子の間で一番人気のスポーツであり、なおかつここ最近はニュースポーツでバドミントンのコートを使用することが多々あると聞く。そのあたりはいかがか。

・高屋委員 体育振興会ではバドミントンのコートをベースにソフトバレーボールをするが、そのままのバドミントンのコートでは狭い。そのため、後から線を引くほうが良い場合もある。

・松永委員 今の御意見から、ある程度スペースがとれる体育館であれば恒久的にラインを引き、コート間が狭く危険が伴う場合はその都度引く等、全市的に確認をし、検討していただければと思う。

- ・事務局（安田課長） 全ての施設を確認できていないが、確かにラインを引いているところと引いていないところがある。状況に応じて対処していければと考えている。
- ・山下委員長 施設の使い勝手については大切なことなので、ぜひお願いしたい。その他、ソフトウェア、ヒューマンウェアの進捗状況に関する意見はないか。
- ・藤井委員 私はウィルチェアーラグビー（車いすラグビー）というスポーツに携わっている。以前、各体育館に練習の問い合わせをしたところ、車いす競技を受け入れた前例がないからとの理由で何件も断られたことがある。車いすが入りにくい施設もあるかと思うが、設備が整っているのであれば、もう少し柔軟に対応していただければ助かる。
- ・山下委員長 障がいのある方が参加しやすいようにするというのはこの計画にも掲げられているので、改修などいろいろな問題とも絡むとは思いますが、現状どうなっているのか。
- ・事務局（安田課長） 体育館では全ての車いすの受け入れを拒否しているわけではない。受け入れが難しい一番の理由は、車いす等で体育館を傷つける恐れがあることだが、例えば車いすで、体育館に傷がつかないような規格のものがある。そういったものに関しては、使用を許可している。決して全てを除外しているわけではなく、こういったものであれば受け入れることができるのかその都度検証をおこなっている。
- ・飯田委員 障害者スポーツ振興会が実施した、施設利用のアンケート調査結果を見ていただきたい。（机上に資料を配布）170の施設にアンケートを送付し、77の有効回答を得た。ハードの部分は今おっしゃったような問題がどこにでもある。また、どこの体育館でも専門の指導員がいないため、プログラムを組むことが難しい。ハードの部分に戻るが、体育館の管理をする側にとっては、市民の財産である施設に傷を付けることに抵抗があることは仕方ない。しかし、車いすで利用する以上、フロアがへこむ・傷つくのは当たり前だとの前提で受け入れをしていただかないと、いつまでも利用は進まないと思う。
- ・長谷川委員 生涯スポーツ講習会の件だが、人気のあるスポーツ講座をずっとやっているのが現状である。他にも様々なスポーツを検討いただき、高齢者の方を含め、より多くの方が講座に参加できるようにしていただきたい。

- ・ 山下委員長                    今の長谷川委員のご意見は、生涯スポーツの多様化に対応してほしいということ。先ほどの飯田委員のご意見は、規格面を改良する前の段階で受け入れる体制をとるべきではないかということ。これは是非そういう方向で進めていくということによろしいか。
- ・ 事務局（松田室長）        管理側にとっては、他の大会をするときに支障が出る場合もあり、正直、受け入れについては悩みながら、というのが現状である。例えばハンナリーズアリーナで国際的な大会がある時にはかなり細かな規制があり、フロア部分については常にきちんと対応しておかなければならない。とはいえ障がいのある方の立場もよく分かるので、非常に悩ましいところである。他の施設の状況や、手法について研究をしたい。また、委員の皆様にもお知恵をいただきたい。
- ・ 福林委員                    これまで受け入れをできていなかった理由は今説明した通りであり、改善はしていかなければならない。しかし実際なかなか前に進めないのは、やることによっていろいろな課題を解決する必要があるからである。一方で、計画の見直しにあたり、非常に大事なポイントだと思っている。非常に重要だという認識を持ったうえで、対応について検討していきたい。藤井委員からは非常に貴重な意見をいただいた。
- ・ 山下委員長                    これから考えるのは当然だが、現在どのように工夫すべきか、そのことを重点的に考えるべきではないか。
- ・ 福林委員                    もちろん、今後5年間のどこかでやろうということではなく、既存の施設を使って何ができるかを含めて検討を行っていく。

## （2）新規・充実施策等に関する意見交換

- ・ 山下委員長                    資料3-6の新たな施策について皆様のご意見をうかがいたい。
- ・ 松永委員                    全体に関わることだが、子どもの定義について考えたい。5年前の計画策定時には、子どもの定義についてあまりこだわっていなかったと思うが、国のスポーツ基本計画の中で幼児期を強調している点を踏まえると、おそらく今までの子どもはどちらかという小学生以上を想定していたかと思う。今回の見直しでは、幼児期と小学生以上、中学生等を明確にし、保護者対応も含め幼児期のサポートをどうしていくのかということと、小学生以上、そして中学生について、別々に検討してはどうか。子どもの使い方をもう少し意識するべきかと思う。
- ・ 山下委員長                    子どもをもう少し細分化して捉えるということか。

- ・松永委員                    その通り。とりわけ幼児期は小学生以上と違ってくるので、意識したほうが良い
- ・山下委員長                先ほどの障がいのある人のスポーツに関してもそうだが、新たな施策例①「2（1）高齢者と子ども・・・」と一括しているのは問題だと思う。松永委員の意見等を踏まえるとそれぞれ分けて項目を起す方がいいかと思う。一緒にしてしまうことによっていろいろな問題が出てきたり、隠されたりするのではないか。
- ・高屋委員                    高齢者もどのあたりから高齢者というのか、非常に難しい。我々体育振興会は特にそうである。80歳でも元気に走っている人もいれば、65歳でも動くことが難しい方がいる。学区内で大会をする時も70歳以上、65歳以上、高齢者等の記載を行うが、高齢者との記載時にその定義について多くの質問がくる。
- ・事務局（北川課長）      現行計画では、スポーツを「する」年代に焦点をあてているように思う。ここに書いているように高齢者、子どもといった「する」年代以外も含めた全ての年代であったり、障がいの有無に関わらずであったりといった視点を持って計画づくりを進めていきたいとの思いが施策例①「2（1）高齢者と子ども・・・」には込められている。実際に計画に盛り込む際にはもう少し細かく検討したい。
- ・山下委員長                私が見たところ、2のテーマ「子どもから高齢者まえ世代を超えて、また障がいの有無に関わらず・・・」は市民スポーツのひとつのスローガンである。これを達成するための具体的な項目として、大学と連携する、企業と連携する、プロスポーツと連携するというのは、関係ないことであり、直接の目標にするのはおかしいのではないか。むしろ先ほどからご意見が出ているように、高齢者の中身をもう少し細かくするとか、子どもの中身を細かくする。障がい者の方への対応を具体的に記述するという方がそもそもの市民スポーツの振興という仕組みづくりにマッチするのではないか。プロスポーツや企業スポーツ、大学との連携というのは、後ほど考えるような組織や連携の問題ではないか。1はスポーツイベントに関する協力体制なのでこれでいいが、2はテーマと内容がどうもすっきりしないような気がするが、いかがか。つまり、企業スポーツと連携したからといって高齢者のきめ細かいサービスはできないのではないか。連携の問題はひとつの施策としてまとめればいい。子ども、高齢者、障がいのある方というターゲットを明確にした上でいろいろな施策を明確にする方がより現実的であり、好ましい。

- ・ 森井委員                    伏見区日野には、ドルフィンという小学生のヒップホップダンスサークルがあるが、以前そこに大学生が踊りを教えに来たことがある。「大学と連携する」ということは、こういった例のように、大学生が持っているものを、スポーツを通じて市民に伝える、それが結果的に市民スポーツの振興につながるといった意味合いで掲載されているのではないか。
- ・ 山下委員長                それは指導体制の問題。大学生の力を借りて生涯スポーツの幅広い活動を促進するのもひとつのテーマだが、そもそも今議論していることは、大学生を雇うということではなく、子どもたちにスポーツの場を設けるということの方が重要ではないかということである。大学生の活用については、違うテーマとしてまとめた方が良い。  
何をするのかという対象の問題をほっといて大学生との連携のようなことが先行してしまうと、本当の市民スポーツの施策にはならないと思う。前提の問題を考えて2の項目は事務局と相談して、重点課題を再検討させていただく。

### (3) 関係団体ヒアリング先について

#### ○資料説明：資料4 (事務局：北川課長)

- ・ 山下委員長                ただ今事務局からの説明通り、7月下旬から8月中旬にかけて、関係団体の皆様に意見を頂戴しに参るが、前回ヒアリングに行ったところはもちろん、新たにヒアリングに行くべき団体にどのようなところがあるのか、意見をいただきたい。また、前回の調査からその後どう変わったかを焦点にして、前回同様私と松永委員が同行することを基本に進めていきたい。ヒアリング内容等、皆様からの意見を頂戴したい。
- ・ 高屋委員                    今回、ヒアリング先のメンバーは前回と変わられるかとは思いますが、話のテーマは前回と統一していただきたい。
- ・ 松永委員                    本日の5番目の議題「スポーツリエゾン京都」と関わってくるが、リエゾンを具体的に考えていく時、スポーツとスポーツ以外の連携が不可欠になってくる。前回ヒアリングをした結果、リエゾンという組織が必要だということにたどりついたかと思う。今回はリエゾンを機能的に動かしていく段階であり、スポーツプラスアルファのいろいろな団体との連携・協力が必要だろうとのことで、それに関連した団体を事務局で挙げてもらっている。例

えば、

民間スポーツクラブに関していえば、カーブスさん（女性にターゲットを絞った30分でできるというコンビニ型フィットネスクラブ）は、本来私たちがやろうとしているようなことを実施されており、非常に参考になると思う。主たる9団体以外に、全部のヒアリングはもちろん無理だと思うが、そのあたりを追加してはどうか。

幼児期のスポーツで言うと、児童館・学童・幼稚園・保育園含めてそのあたりの子どもたちの現状の把握も必要である。昔は勝手に遊んで、遊びからスポーツにつながるが多々あったが、今、京都市内は勝手に遊べるスペースがなくなってきている。このような状況の中で、どのような取組をされているのか、リエゾンの視点を含めて検討していければと思うが、事務局レベルでの情報収集で十分事足りる部分もあるかとは思う。

・長谷川委員

大きな商業施設に併設されているスポーツジムについて、スポーツだけをしに行くのではなくて、商業施設を利用するついでに来られる方も多く、きっと幅広い年齢層の人たちが利用していると思われるので、カーブスさんもいいが、そういうところも調査したらどうか。

・山下委員長

リエゾンのワーキンググループがヒアリングするというのであれば確かに参考になると思うが、今回のヒアリングは市民スポーツの主体としての団体を対象にしている。そのため、民間スポーツクラブを調査しに行くことと体育振興会を調査しに行くことは性質が違ふような気がする。市民スポーツの主体である人たちの集まりがどのようなニーズを持っているのかということに留めていた方が良くはないか。いろいろなノウハウはこれからのリエゾンという組織のために必要だから、それは別途考えることにしてはどうか。後は事務局と委員長である私に一任いただければと思う。

#### （４）アンケート調査について

○資料説明：資料5（事務局：北川課長）

・山下委員長

ただいまの事務局からの説明に関して、何か質問・意見はあるか。

・高屋委員

このアンケートは3,000人で1,000人くらい、33%

が回答ということだが、どのような方法で調査をするのか。内容によっては、複雑な質問をすると回答が難しい。インターネット等の方法はとらないのか。

- ・事務局（北川課長） 前回と同様、郵送でのアンケートを考えている。
- ・高屋委員 郵送では、返信用封筒等、かなりのコストがかかるのでは。時間がないので仕方がないが、無作為ですのであればインターネットが良い方法ではないかと思う。少し複雑な質問もインターネットなら可能である。
- ・石野委員 インターネットはそれを使える人の範囲がアンバランスで、若い人はインターネットをよく使うが、回答もアンバランスになってしまう可能性がある。
- ・藤井委員 資料について、この文字のサイズでは読めない方や、ルビがないと読めない方などへの配慮はなく、これが読めて理解できる方だけが対象になるのか。
- ・事務局（北川課長） 前回はこの調査票だったが、その辺も踏まえて検討させていただく。
- ・山下委員長 すべてを満足させる調査というのはなかなか難しいので、その辺を補う意味でヒアリング等をさせていただく。それから、前回と比較する必要があるため、できる限り前回のアンケートに沿ったかたちでやりたいと思う。そこのところ、ご了承いただければと思う。また、私ばかりで恐縮だがご一任いただければありがたい。

#### （５）（６）スポーツリエゾン京都・今後のスケジュールについて

##### ○資料説明：資料 6（事務局：北川課長）

- ・山下委員長 ただいまの報告について、質問・意見等はあるか。
- ・松永委員 補足だが、前回の会議でスポーツリエゾンは私が中心で進めていくようにと指示をいただいた。事務局と相談の結果、事務局側や私自身でリエゾンの形を決めてしまうと、他の方にとっては巻き込まれた感・やらされた感が強くなり、本来とは違う方向に行ってしまう可能性がある。そこで、先ほど委員長からも指摘があったように、ヒアリングについて、9団体は見直しを中心にヒアリングをさせていただき、リエゾンが具体的な組織づくりに向けて必要な情報、現状把握をするために、網掛けの方からいくつか



選定して、ワーキングでヒアリングに行かせていただく。場合によってはヒアリングではなくて、事務局が市役所内で情報交換や情報提供していただくことは可能だと思うので、そういった2本立てヒアリングということで進めていくのはどうかということで、スケジュールにリエゾンの欄をつくってもらった。最終的にはヒアリングの結果の報告というよりは、組織を具体的にどうつくっていくのかということで、少なくとも12月ぐらいには大枠を提案できればと思う。それからワーキングのメンバーについては、山下委員長と事務局と相談させていただくことになると思うが、この中のどなたかであることは間違いないので、よろしく願います。

・山下委員長

ワーキンググループのメンバーについてこの場で決めたいと思う。先走って申し訳ないが、私のイメージでは、リエゾンは、市民スポーツ・プロスポーツ・スポーツボランティアのそれぞれのネットワークを繋げることである。この3つ、「する」「みる」「支える」を結び付けることによって、何かが動かせるのではないかと思う。そういった観点から、ボランティア活動が活発に行われている京都マラソン事務局から1名、そして、市民スポーツという観点で体育振興会から高屋委員に、またプロスポーツ関係の方から1名、計4名にワーキンググループに入ってもらえればと思う。

・松永委員

私も委員長とイメージが似通っていたのだが、まずは高屋委員にお願いしたい。

・高屋委員

(了承)

・松永委員

プロスポーツについては、京都ハンナリーズの武田さんが来ている。

・山下委員長

武田さん、いかがか。

・武田さん

(了承)

・山下委員長

ただ今の3名と松永先生の4名のワーキンググループで出発させていただくということでご了承いただきたい。

・委員一同

(了承))

・山下委員長

それではただ今のようなかたちで、今後は私とワーキング会議の委員長の松永先生と検討させていただき進めさせていただきたい。

## 5 閉会

・事務局（松田室長）

これからの計画の見直しについて具体的な作業へとはいっていき、本日審議いただいたアンケート・ヒアリング団体等につい

て、何か他に意見等あれば事務局に連絡いただければと思う。  
まだ端を発したところではあるが、今後もなにとぞよろしく願  
いする。